

基本方針の見直しの背景

児童生徒を取り巻く社会情勢

- ◆人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代の到来
- ◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大による世の中全体のデジタル化、オンライン化の促進
 - ⇒ GIGAスクール構想による一人一台端末環境の実現
 - ⇒ 「主体的・対話的で深い学び」に向けた児童生徒自身による端末の自由な発想での活用、プログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用能力の育成
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和3年1月)」より
- ◆コロナウイルス感染拡大による生活環境の変化(集団活動が制限されたことによる孤独や孤立、家計の圧迫による生活への不安の増大)
 - ⇒ 一人ひとりのこどものwell-beingを高めることは、社会的発展を確保できるかどうかの分岐点と言える。
「子ども政策の推進に係る有識者会議報告書(令和3年11月)」より

いじめ防止等の取組についての国の動き

- ◆生徒指導提要の改訂(令和4年12月)
 - ・事案発生後の困難課題対応的の生徒指導から、すべての児童生徒を対象とする発達支持的の生徒指導及び課題予防的の生徒指導への転換
- ◆こども家庭庁の創設(令和5年4月)
 - ・「こどもまんなか」の発想で社会総がかりのいじめ防止対策を推進
- ◆「いじめ問題への的確な対応に向けた警察との連携等の徹底について(通知)」(令和5年2月7日)
 - ・学校のみでは対応が困難な事案等、学校と警察が日常的に情報共有や相談を行える体制の構築
- ◆教育振興基本計画(令和5年6月)
 - ・いじめの未然防止、いじめの積極的な認知と早期の組織的対応、関係機関との連携、いじめの重大事態への対応といった、いじめ防止対策の強化

本県の現状と課題

- ◆いじめ防止対策基本法(H25)施行以降、いじめの積極的な認知に向けた取組が進む一方、いじめの重大事態が発生している。
- ◆ネットいじめの件数が全国的に増加傾向にあり、高知県も同様の傾向。ネットトラブル・ネットいじめに対する継続した対応が必要である。
(ネットいじめの件数(国) : R1年度17,924件、R2年度 18,870件、R3年度21,900件)

表：いじめの認知件数の状況
(国公私立学校 1,000人当たり)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
高知県	48.3件	55.6件	55.2件	55.1件
全国	40.9件	46.5件	39.7件	47.7件

基本方針改定のポイント

- 「生徒指導提要」の改訂、「こども基本法」の施行等に伴った内容の追加や文言の修正
- 誰もが安心できる教育現場の実現(「ネットいじめ」に関する対策も含め、いじめを生まない環境づくり、未然防止の取組の充実)
- いじめの重大事態化を防ぐための取組の充実(早期発見、早期対応等の取組及び関係機関・団体との連携の在り方等)

高知県いじめ防止基本方針の改定までのスケジュール(案)

令和5年度

令和6年度

連絡協議会

第1回

第2回

第1回

第2回

高知県いじめ防止基本方針
改定に盛り込む内容を協議

情報収集

県の基本方針
の見直し箇所の整理

高知県いじめ防止基本方針
素案をもとに協議

協議内容を改定案
に反映

高知県いじめ防止基本方針
改定案の検討

パブリックコメント

高知県いじめ防止基本
方針(改定版)の確認

高知県いじめ防止基本
方針(改定版)策定

改定版について
市町村・県立学校への周知

各市町村・各学校における
いじめ防止基本方針の見直し
への働きかけ